

# 「キャッシュレス決済の利用実態と今後の拡大」 に関する調査結果

2019年4月15日

## 調査目的

日本政府は2025年までに、キャッシュレス比率40%を目標値として掲げ、利用者を増やすための施策を打ち出している。

また、企業側の動きとして、スマホ決済サービスにIT、小売、銀行、携帯電話会社など様々な業種が参入し、2018年後半からは大規模キャンペーンなどのプロモーション活動が活発に行われるなど、“スマホ決済”関連のニュースを見ない日はないといってよいほどの盛り上がりを見せている。

一方、政府や企業が主導となって進めている印象が強い“キャッシュレス化”ではあるが、どの程度利用されているのだろうか。

本調査は、現在のキャッシュレス決済の利用状況を把握すること、そして今後拡大していくのかを確認するとともに、キャッシュレス決済利用者が“お金”への意識や行動に変化が見られたかを明らかにすることで、日本のキャッシュレス化促進に資することを目的として実施した。

## 主な調査結果

—キャッシュレス決済の利用率は最近3か月で8割と高く、その内訳は「クレジットカード」「カード型電子マネー」の利用が主流。

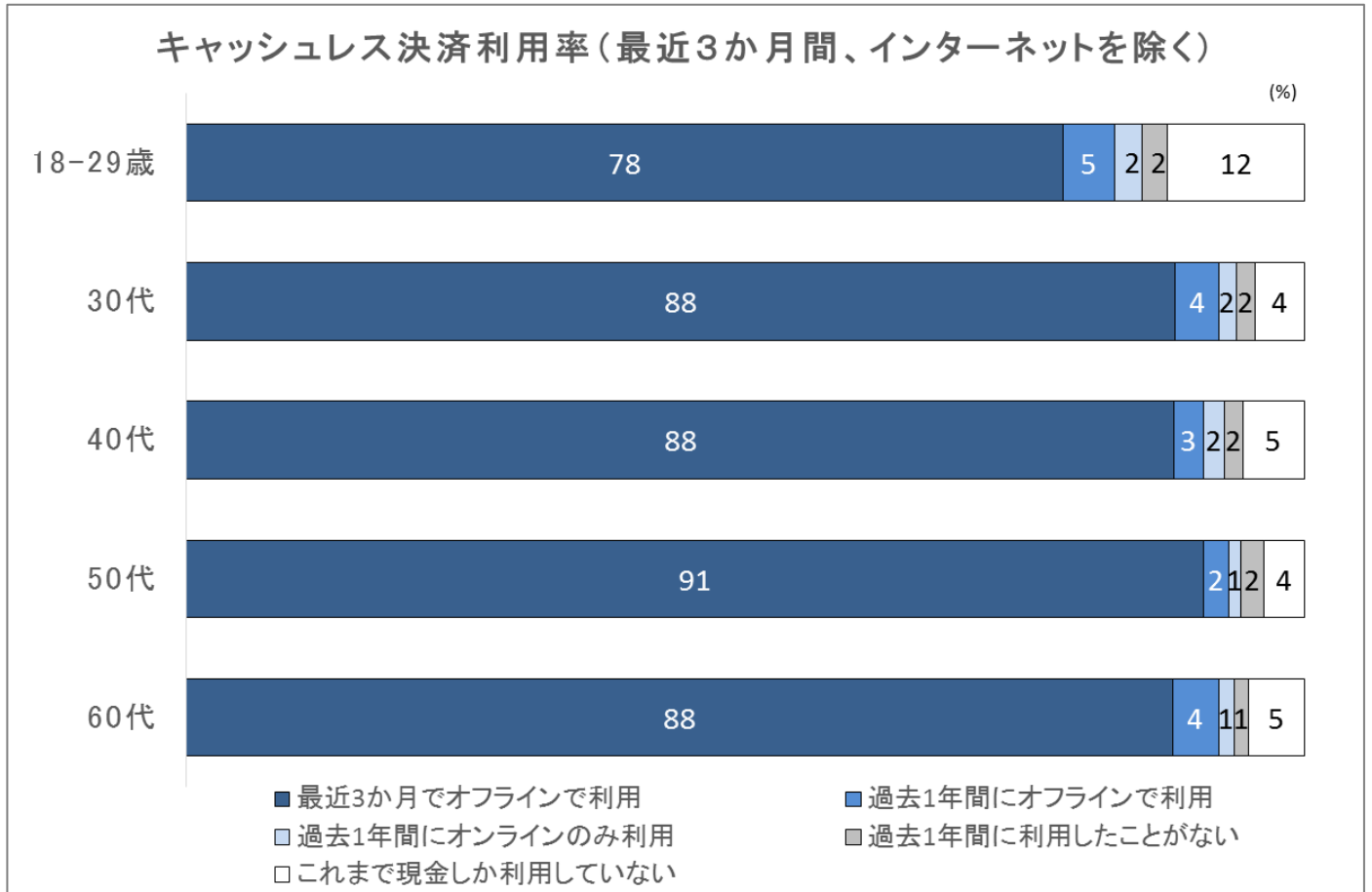
—国が主導する“キャッシュレス”施策は、認知の底上げが喫緊の課題。

—今後利用できるお店や場所が増えることで、電子マネーやスマホ決済の利用が増え、“キャッシュレス化”はいっそう進む。

# 1) キャッシュレス決済の現状

■2019年3月時点でのキャッシュレス決済利用率(インターネットでの利用を除く、最近3か月の決済での利用)は8割と高い。

(図表1)

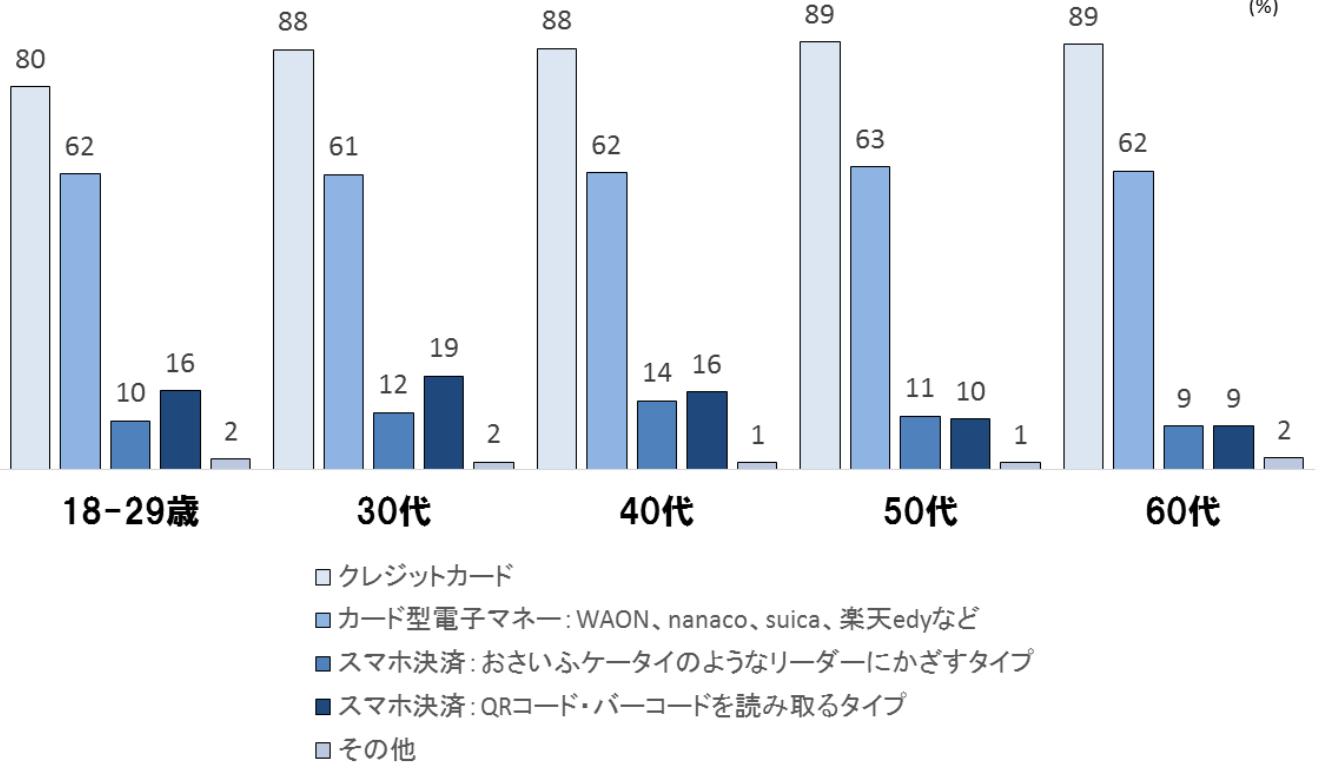


■キャッシュレス支払いの方法は「クレジットカード」と「カード型電子マネー」が主流。スマホ決済の利用率は1~2割程度とまだ低い。

(図表2)

## キャッシュレス支払い方法(最近3か月、インターネットを除く)

(%)



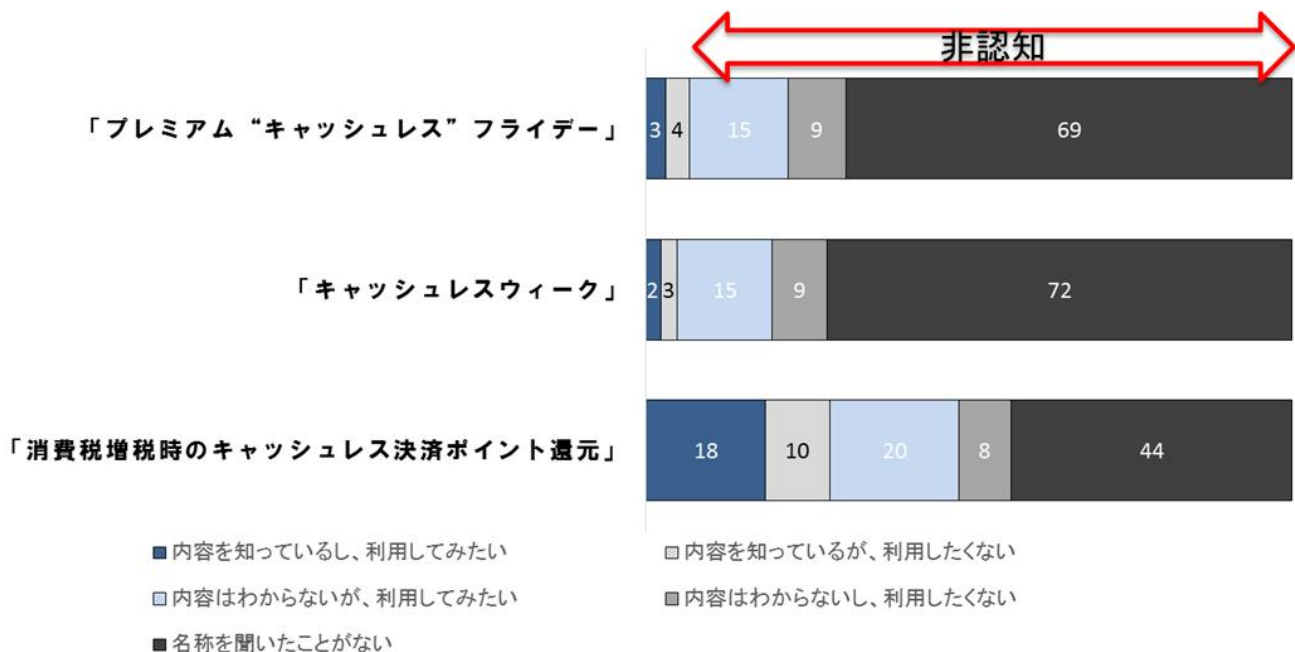
## 2) キャッシュレス化サービスや施策の利用意向

■キャッシュレス化促進のために実施する施策は認知が低いことが課題。3つの中で最も認知されている「消費税増税時のキャッシュレス決済ポイント還元」ですら、28%程度。

(図表3)

### キャッシュレス化促進政策の認知と利用意向

(%)

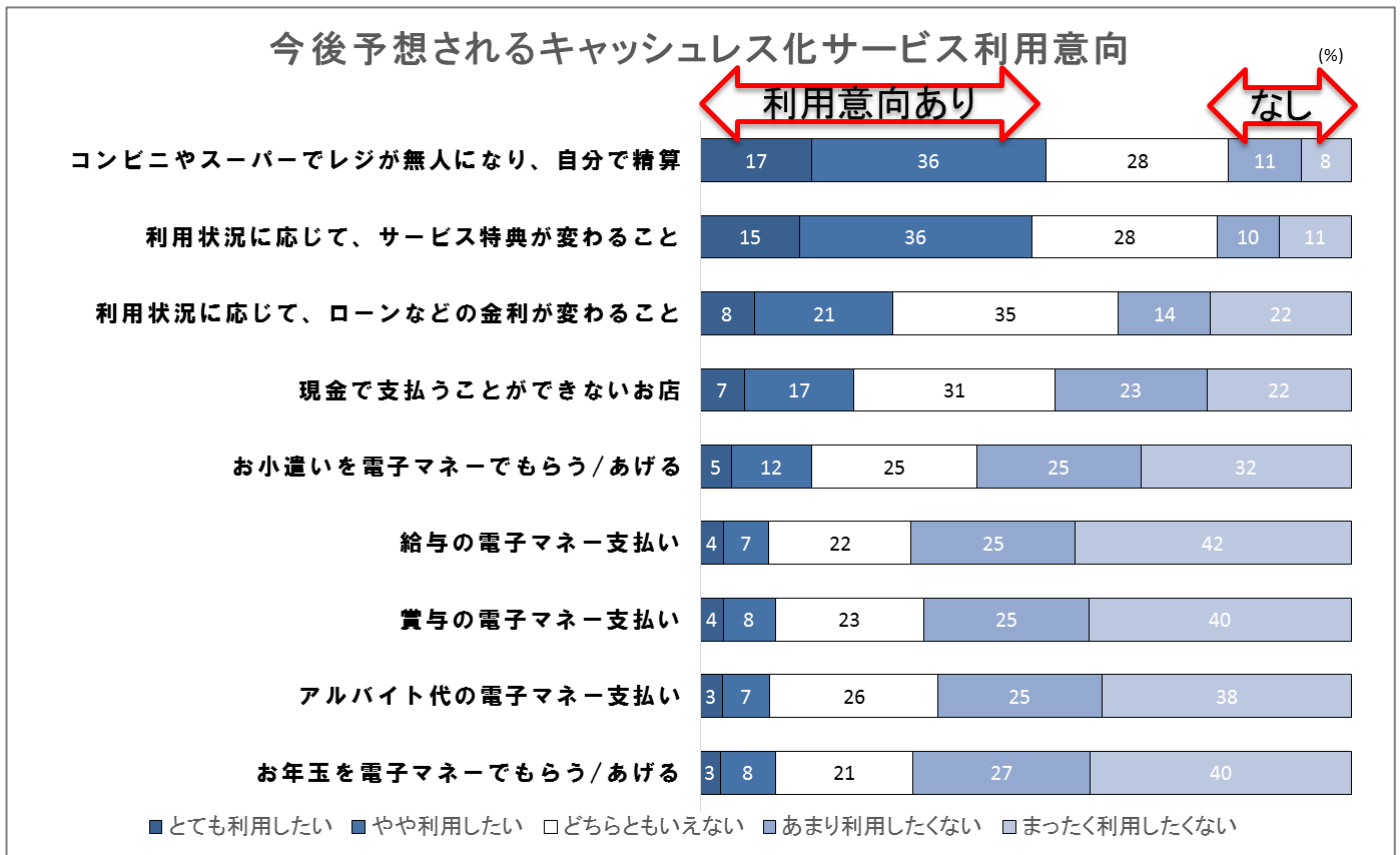


■ 今後キャッシュレス化が進んでいくことで変化しそうなサービスや施策について聞いた。

「無人レジ」、「利用状況に応じてサービス特典が変わること」は利用意向が高く、受け入れられやすいと思われる。

一方「給与や賞与の電子マネー支払い」といった自分が受け取ることに关してはまだ現金志向が高いという結果となった。

(図表4)

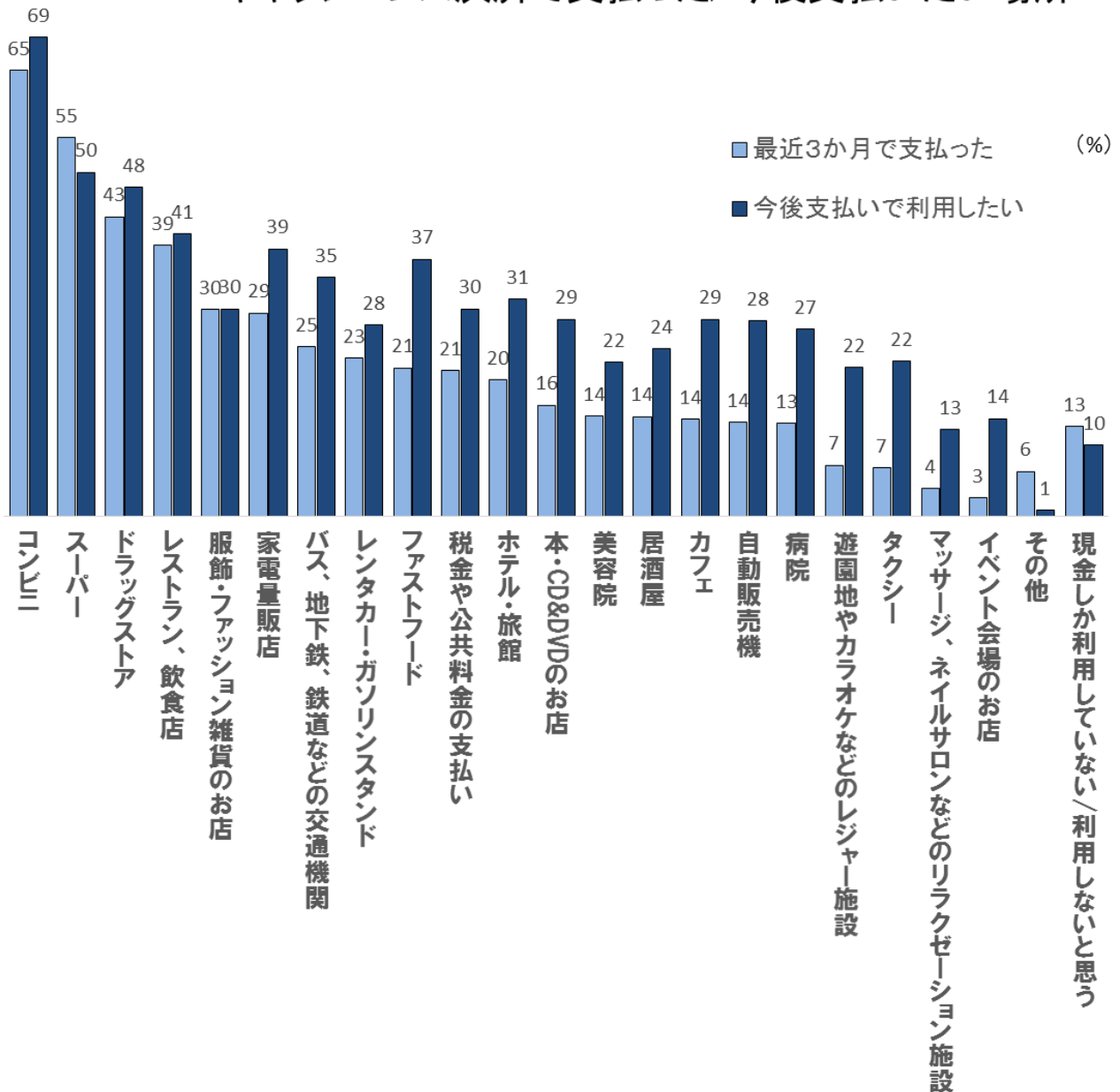


### 3) キャッシュレス化推進に必要なもの

■ 実際にキャッシュレス決済で支払ったお店や場所と今後支払いをしたいお店や場所を比較すると、よく利用するコンビニやドラッグストアでも充足されていないことがわかる。その他のお店や場所も今後の利用意向が高く、支払いができるお店や場所を増やしていくことキャッシュレス決済の利用は増えそう。

(図表5)

## キャッシュレス決済で支払った/今後支払いたい場所

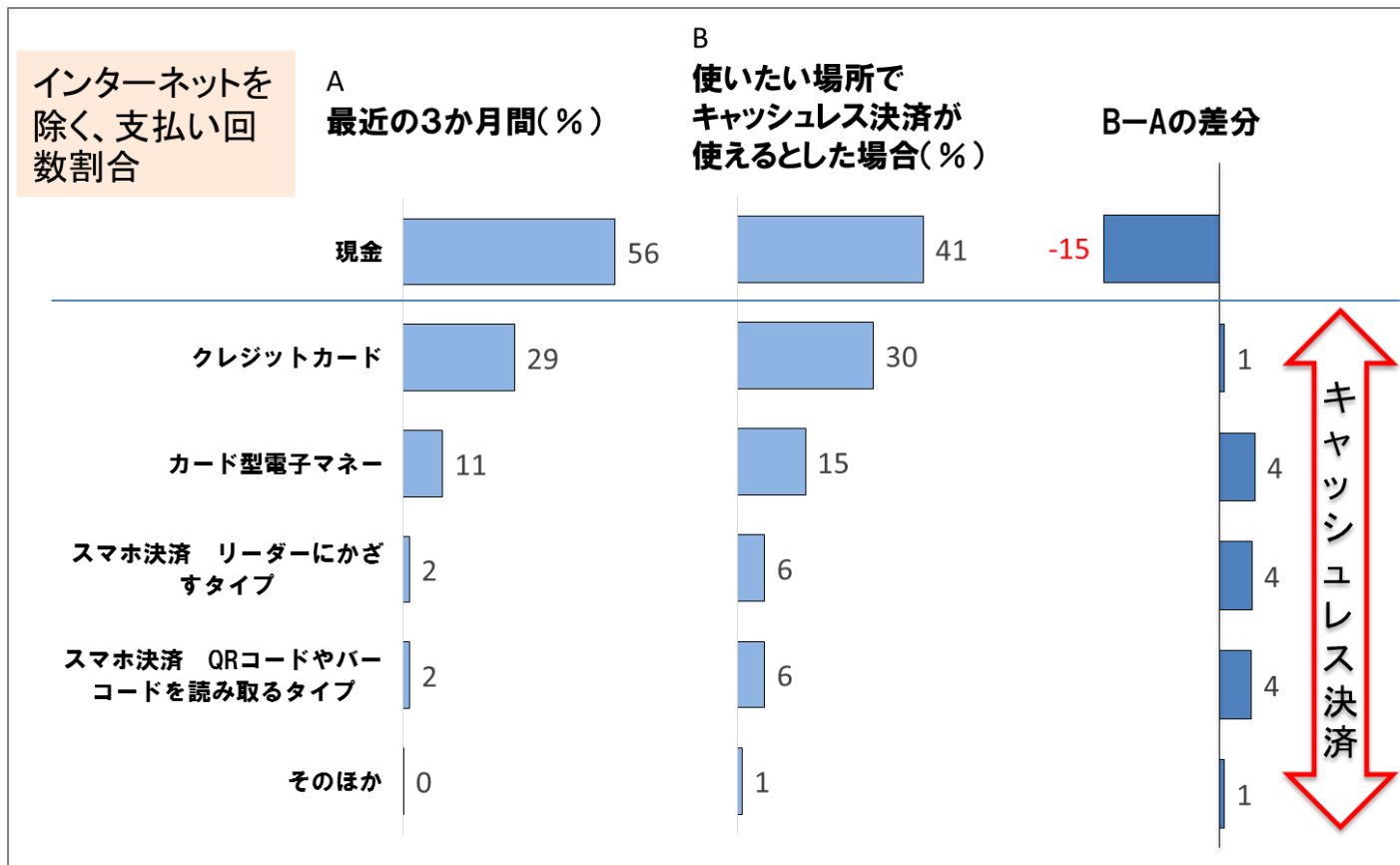


■ 決済手段別の利用回数割合を“最近の3か月間”の実態と、前の設問で聞いた“使いたい場所で使えたとした場合”のそれぞれで聞いた。

両者を比較すると、利用できる場所が増えるだけで、キャッシュレス化比率は44%から59%と15ポイントアップし、キャッシュレス化が拡大するという結果になった。

その内訳は「クレジットカード」ではほとんど変化はなく、「カード型電子マネー」「スマホ決済」の割合がそれぞれ増加している。

(図表6)



#### 4) 電子マネー、スマホ決済利用による変化

■過去1年以内に電子マネーやスマホ決済での支払い利用者に、意識や行動で感じている変化について聞いた。

最も大きな変化は、キャンペーンへの意識が高くなったこと。いずれの年代でも最も高い。

次に「持ち歩く現金が少なくなった」「小銭が減った」といった物理面、「現金の必要性を感じなくなった」など心理面での現金離れも見られる。

また、使いすぎを気にしてか「クレカや銀行口座の残高を見る頻度が増えた」や、「銀行に行かなくなる」「なるべく(電子マネーやスマホ決済を)利用できる店を選ぶようになった」という行動の変化も見られる。

(図表7)

	ポイントや還元率を以前よりも気にするようになった	持ち歩く現金が以前より少なくなった	お財布の中の小銭が減った	見る頻度が増えた	クレジットカードの履歴や銀行口座の残高を	以前よりも銀行やATMに行かなくなった	選ぶようになった	なるべく電子マネーやスマホ決済ができる店を選んだ	現金の必要性を以前より感じなくなった	高額紙幣を持ち歩かなくなった	現金が不要なので、余計な買い物が増えた	買い物の履歴がわかるので、おこづかいや家計管理がしやすくなった	話題にするようになった	電子マネーやスマホ決済について、家族や周囲の人と避けるようになった	電子マネーやスマホ決済ができない店は	現金の必要性を以前より感じるようになった	実店舗で買い物をする回数が減った	お財布が小さくなった／お財布を持たなくなった	クレジットカードを使う機会が減った	買い物の履歴が一覧できるので、無駄な買い物が減った	実店舗で買い物をする回数が増えた	現金でのワリカンが面倒になった	お財布の中の小銭が増えた	衛生面が気になり、現金を触ることに抵抗感を持つようになった	ワリカンをよくするようになった	その他
18-29歳	49	34	25	33	28	22	28	18	19	16	14	10	11	8	12	6	8	9	11	3	2	1	3			
30代	54	33	28	29	30	26	27	19	15	14	10	9	8	7	8	7	6	8	7	1	1	0	4			
40代	47	33	28	23	24	28	20	15	16	10	9	10	9	8	6	6	6	4	4	2	1	0	8			
50代	41	31	29	22	25	23	21	18	12	11	7	9	9	6	5	6	6	5	4	2	1	0	9			
60代	41	40	40	27	22	28	30	20	12	12	7	7	4	8	7	8	6	5	3	1	0	0	7			

## 調査概要

### ■調査方法

インターネット上でのアンケート

### ■調査期間

2019年3月25日(月)～3月27日(水)

### ■調査対象者と有効回答数

全国18歳～69歳男女 合計:3,914s

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
男性	412s	412s	412s	412s	309s
女性	412s	412s	412s	412s	309s

# 本資料・データの使用・掲載について

本資料・データを使用・掲載される際には、必ず下記の出典を明記してください。

「キャッシュレス決済の利用実態と今後の拡大」に関する調査結果(紀尾井町戦略研究所)

以上

---

## お問い合わせ先

紀尾井町戦略研究所 研究室

メールアドレス [contact@ksi-corp.jp](mailto:contact@ksi-corp.jp)

URL <https://www.ksi-corp.jp/>